

平成21年9月15日

来年の開館五十周年（近鉄創業百周年）に向け

## 大和文華館をリニューアルします

～展示室改装、バリアフリー化等により、より快適に鑑賞できる美術館へ  
本年10月着工、来年11月リニューアルオープン～

近鉄は、来年9月16日に創業百周年を迎えますが、その記念事業の一環として、当社の文化事業の中核施設であり、来年開館五十周年を迎える大和文華館を大幅にリニューアルしますのでお知らせします。

大和文華館は、国宝4件、重要文化財31件をはじめ約2,000件の美術工芸品を収蔵し、近鉄の創業五十周年記念事業として昭和35年に開館して以来、通算約175万人の方が訪れ、沿線文化の高揚に大きな役割を果たし続けています。

この度のリニューアルでは、著名な建築家吉田五十八氏の代表的作品である建物の外観の趣は残しつつ、建物内部において展示ケースを一新するほか、ミュージアムショップ、トイレ、休憩スペースを拡充して、より快適な鑑賞環境を実現します。さらには、駐車場から美術館に至る通路の再整備を行い、高齢のお客様にも歩きやすい通路とするほか、駐車場の緑化、建物周辺の修景工事を行い、美観向上を図ります。

本年9月28日から同館は一旦休館して、10月から工事に着手、来年11月にはリニューアルオープンさせる計画で、オープン後は開館五十周年記念展の開催を予定しています。詳細は別紙のとおりです。



リニューアル完成イメージ（展示室）

# 詳細

## 1. リニューアル工事計画図



## 2. リニューアル工事内容

### (1) 展示ケースの一新

- ・鑑賞環境を向上させるため、最新の照明器具、高透過ガラス、視覚調整スクリーンを導入して展示ケースを一新します。
- ・免震皿を設置し、万が一の地震の際にも美術品の保護を行います。



リニューアル完成イメージ(展示室) 2

(2) ミュージアムショップ、トイレ、休憩スペースの拡充

- ・所蔵品を解説・紹介する図録や絵葉書等のグッズ販売のためのスペースを拡大し、楽しく充実したミュージアムショップを整備します。
- ・休憩スペースをミュージアムショップ内に整備するほか、トイレも移設拡充し、より快適な美術館とします。



リニューアル完成イメージ(ミュージアムショップ)

(3) 駐車場の舗装および緑化

- ・現在、砂利敷きになっている駐車場を透水性のアスファルトに舗装するとともに、緑化を施し、お客様が到着した際の印象を向上させます。

(4) 駐車場から美術館本館に至る通路の整備

- ・駐車場から美術館本館までの通路については、現在砂利敷きとなっていますが、石を敷設し、高齢のお客様にも歩きやすい通路へと再整備します。

(5) その他

- ・建物外周の庭を再整備するなどの修景工事を行います。
- ・講堂の改装、耐震補強、空調等設備機器の更新等を行います。

2. 工事期間 平成21年10月～平成22年10月

3. リニューアルオープン 平成22年11月(予定)

4. 投資額 約12億5千万円

5. その他

- (1) 本工事に伴い、大和文華館は本年9月28日～来年10月末まで休館します。
- (2) 来年11月のリニューアルオープン後には、開館五十周年記念展を行う予定です。

## (参考) 大和文華館概要



現況写真(大和文華館全景)



現況写真(本館正面)

所在地：奈良市学園南1丁目11番6号

開館年月：昭和35年11月1日(近鉄創業五十周年記念事業として開館)

構造・規模：鉄筋コンクリート造 地下1階、地上2階建

延床面積：2,324㎡(本館)

収藏品：国宝4件、重要文化財31件含め約2,000件(主に日本、中国、朝鮮の美術工芸品)

入館者数：年間約3万人(平成20年度) 開館以来通算延べ約175万人

国宝4件の概要：

- ・<sup>ふじょゆうらくずびょうぶ</sup> 婦女遊楽図屏風 < <sup>まつうらびょうぶ</sup> 松浦屏風 >



(解説) 六曲一双の金地屏風に、18人の人物をほぼ等身大に描いている。極彩色に彩られた人物は、着飾った遊女や遊廓で養われていた少女、禿(かむろ)たちである。遊女は、三味線や双六、カルタに興じ、また、化粧をし、髪を結うなど身だしなみに精を出している。両隻の人物の配置はほぼ左右対象になっており、遊廓における遊女の日常の姿を巧みにまとめている。この作品では、入念に描き込まれた衣裳がとりわけ美しい。さながらファッションショーを見るようである。この衣裳の細密な表現から、染織に関する職人が制作に携わったのではないかと考える意見もある。なお、この屏風は、九州平戸の大家、松浦家に所蔵されていたことから、松浦屏風と呼ばれる。

せつちゅうきぼくす  
 ・雪中帰牧図



(解説) 李迪(りてき)は12世紀後半の南宋画院を代表する花鳥画家である。梁楷、馬遠、夏珪らもほぼ同時期に活躍しており、当時の画院は皇帝のための作画機構として最高の水準にあった。とりわけ対象物を凝視することによって物の本質を把握し、豊かな伝統の上に立つ確かな技巧でそれを表現した花鳥画は、この時代の最も輝かしい成果といえよう。「李迪」の隠し落款が画面右下の土坡にある右幅は、完成された簡潔な構図のもと、人物や牛の描法にすぐれ、微妙な墨調の変化と抑制された賦彩によって、見事に雪後の静けさを表現している。足利義尚、井伊家の旧蔵品である。

ねざめものがたりえまき  
 ・寝覚物語絵巻



(解説)『夜の寝覚(ねざめ)』は、女性の主人公である中の君(なかのきみ)が、姉の夫の中納言、左大将、帝(冷泉(れいぜい)院)との恋愛をめぐる、数奇な運命をたどる物語であり、作者は菅原孝標女(すがわらのたかすえのむすめ)と伝えられる。この絵巻は絵と詞書とも四段からなるが、錯簡をきたしており、絵一段に対応する詞書は失われている。満開の桜のもとで童子達が楽器を奏でる絵一段は、物語のどの場面にあたるのか不明であるが、絵二段は中の君と中納言の子、雅子君(まさこきみ)が左大臣の女御のもとに立ち寄った場面、絵三段は初夏の曙に、女三宮の女房と語る雅子君、絵四段は中の君を想い、涙する冷泉院を描く。寒色系の顔料を多用し、精緻に描かれた画面には、平安貴族の耽美的な趣味が色濃くあらわれている。

いちじれんだいほけきょう  
 ・一字蓮台法華経



(解説) 平安時代後期には、華麗に装飾された経巻が制作された。この法華経の普賢菩薩勸発品(ふげんぼさつかんぱつぼん)を書写した経巻は、「平家納経(へいけのうきょう)」や「久能寺経(くのうじきょう)」とならぶ装飾経を代表する作品である。金銀の砂子や切箔をまき、彩色を施した料紙には、贅が尽くされている。経文の文字を蓮台に乗せて金輪で囲むのは、文字そのものを仏身と見なす考えによる。経巻を荘厳(しょうごん)することで、篤信のほどを示そうとしたのであろう。法華経信仰と貴族社会の洗練された美意識が生み出した宗教美の結晶と言える。また、この経巻の見返には、吹抜屋台(ふきぬけたい)の室内で法事を営む情景を描き、読経する僧らの表情まで巧みに表現している。平安時代の和絵としても貴重な作品である。